

板金工事・屋根工事

責任施工保証制度

保証申請書・チェックシート

北海道板金工業組合

平成27年4月1日発行

年 月 日

誓 約 書

株式会社全日本建築板金保証センター
取締役社長 殿

北海道板金工業組合
理事長 殿

施工者・名称

代 表 者 ⑩

所 在 地

電 話

私は、北海道板金工業組合の定めた責任施工保証書発行規約に基づいて施工し、検査を受けると共に株式会社全日本建築板金保証センター（以下「保証センター」という）による工事保証書の交付を申請するにあたり、下記事項を誓約します。

記

1. 北海道板金工業組合の責任施工保証書発行規約及び細則並びに保証センター保証約款を了承し、これに基づき施工にあたります。
2. 工事管理責任者の指示に従うことはもちろん、組合検査員の意見を尊重いたします。
3. 施工後、施工者側における配慮の欠落による故障と保証センターが判定した場合、保証センターの指示に従って速やかに修補又は再施工の任にあたります。その際の費用一切は当方で負担いたします。
4. 施工後、事故が発生し、当方で修補した場合には、その経過報告を速やかにいたします。
5. 保証書申請にあたって、北海道板金工業組合に提出した書面の記載事項に変更が生じた場合は、速やかにお届けいたします。

以 上

板金工事保証申請書

所属組合名	北海道板金工業組合	支部
施工事業所		
工事名		
工事場所		
発注者		
建物構造・用途		
元請業者	社名 住所	代表者 電話
保証書宛先名称		

工事概要	工法			
	材種・色			
	板厚	m/m	m/m	m/m
	面積	m ²	m ²	m ²

中間検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日
完成検査	年 月 日	年 月 日	年 月 日
保証期間	年	年	年
保証開始日	年 月 日	年 月 日	年 月 日

写真 [] 部添付し、上記の通り申請いたします。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

申請者（責任施工業者）

住 所

事業所名

代 表 者

電 話

⑩

検 査 員

氏 名

資 格 番 号

⑩

保証書番号

チェックシート
立平葺及び蟻掛葺
同カバールーフ
中間検査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
材 料	溝板の厚さは、0.35mm以上で且つ仕様書通りの厚さが使用されているか。			
	吊子の板厚は、溝板と同等以上が使用されているか。			
	吊子の長さは、50mm以上あるか。			
	中間吊子の長さは60mm以上か。力心は、直径4mmの垂鉛メッキ鋼線となっているか。			
	下葺材は、アスファルトルーフィング940以上が使用されているか。			
墨 出 し	割付け、墨出しは施工図通りであるか。			
下 地 の 状 態 及 び 下 葺 き	断熱材の使用は指定してあるか。使用の場合、同等又は同等以上の品質であるか。			
	下葺材の重ねは、100mm以上で横貼りとなっているか。又、縦貼りの場合は、200mm以上となっているか。			
シーリング材	ハゼにテープの貼付又はコーキングがされているか。			
吊 り 子	吊り子の取付間隔は、250mm以内となっているか。			
	固定釘は、有効打ち込み長さ45mm以上のものを使用して、1個の吊り子に1又は2本で止められているか。			
唐 草 け ら ば 納 め	唐草、けらばを釘止めとする場合、釘の長さは32mm以上を使用、500mm以内の間隔で取り付けられているか。			
	継ぎ目重ねは、30mm以上となっているか。			
	垂れ下がりは、野地板より10mm以上下がっているか。			
谷 納 め	捨て板は100mm以上あるか。			
	掴み込み部分に、シーリング材を充填してあるか。			
水 上 端 部	立上がり部分は、八千代折りを基準とし、水返しを付けてあるか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

チェックシート
立平葺及び蟻掛葺
同カバールーフ
完成検査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
棟 納 め	棟包みは、棟板に32mm以上の釘を500mm間隔以内で止めてあるか。(防水テープでも可)			
	棟包みは、ハゼ組とする方法で施工してあるか。			
	棟包みの垂れ下がり部分は、溝板まで下げてあるか。			
水上部分及び登りの雨押え	雨押え立上りは120mm以上で、ハゼ組か又は、垂れ下がり部分を溝板まで下げてあるか。			
	水上部分の立上りは、ハゼを倒して120mm以上の立上りとし、水返しを付けてあるか。(防水テープでも可)			
	棟納めに準じて止めてあるか。			
シーリング	各部分の必要な箇所へのシールは出来ているか。			
そ の 他	屋根材の表面に傷はないか。又、タッチアップ等の補修がされているか。			
	屋根の上や関係する場所の清掃が行われているか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

チェックシート フラットルーフ

中間検査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
材 料	溝板の厚さは、0.35mm以上で且つ仕様書通りの厚さが使用されているか。			
	溝板は吊り子と一体になっているか。又は溝板と吊り子が別の場合、吊り子は通し吊り子となっているか。			
	下葺材は、アスファルトルーフィング940以上が使用されているか。			
墨 出 し	割付け、墨出しは、施工図通りであるか。			
下 地 の 状 態 及 び 下 葺 き	断熱材の使用は指定してあるか。使用の場合、同等又は同等以上の品質であるか。			
	屋根勾配は、3/100程度以上となっているか。			
	下葺材の重ねは、100 mm 以上で横貼りとなっているか。又、縦貼りの場合は、200mm以上となっているか。			
シーリング材	ハゼのテープは、切れめなく貼られているか。			
吊 子	固定釘は、有効打込み長さ45mm以上のものを使用して、250mm以内の間隔で止めてあるか。			
唐 草 け ら ば 納 め	唐草、けらばを釘止めとする場合、釘の長さは32mm以上を使用、500mm以内の間隔で取り付けられているか。			
	継ぎ目重ねは、30mm以上となっているか。			
	垂れ下がりは、野地板より10mm以上下がっているか。			
水 上 端 部	立上がり部分は、八千代折りを基準とし、水返しを付けてあるか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

チェックシート
フラットルーフ

完成検査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
棟 納 め	棟包みは、棟板に32mm以上の釘を500mm間隔以内で止めてあるか。(防水テープでも可)			
	棟包みは、ハゼ組とする方法で施工してあるか。			
水上部分及び登りの雨押え	雨押え立上りは120mm以上で、ハゼ組か又は、垂れ下がり部分を溝板まで下げてあるか。			
	水上部分の立上りは、ハゼを倒して120mm以上の立上りとし、水返しを付けてあるか。(防水テープでも可)			
	棟納めに準じて止めてあるか。			
シーリング	各部分の必要な箇所へのシーリングは出来ているか。			
そ の 他	屋根材の表面に傷はないか。又、タッチアップ等の補修がされているか。			
	屋根の上や関係する場所の清掃が行われているか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

チェックシート
心木なし瓦棒葺
同カバールーフ
中間検査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
材 料	溝板の厚さは、0.35mm以上で且つ仕様書通りの厚さが使用されているか。			
	吊子、キャップの板厚は、溝板と同等以上が使用されているか。			
	固定ボルトは、M6以上のボルトが使用されているか。			
	固定釘は、有効打込み長さ45mm以上が使用されているか。			
	座金は、厚さ1.0mm以上、直径20mm以上のものが使用されているか。			
墨 出 し	割付け、墨出しは施工図通りであるか。			
下 地 の 状 態 及 び 下 葺 き	野地板は規定のものを使用し、母屋2～3本にかけて敷き込んでいるか。			
	下葺き材は、アスファルトルーフ940以上のものが使用されているか。			
	下葺材の重ねは、100mm以上で横貼りとなっているか。又、縦貼りの場合は、200mm以上となっているか。			
	断熱材の使用は指定してあるか。使用の場合、同等又は同等以上の品質であるか。			
シーリング材	ハゼにテープの貼付又はコーキングがされているか。			
吊 子	固定釘は、250mm以内の間隔で止めてあるか。			
	固定ボルトは、母屋毎に堅固に止めてあるか。			
唐 草 け ら ば 納 め	唐草、けらばを釘止めとする場合、釘の長さは、32mm以上を使用、500mm以内の間隔で取り付けられているか。又は鉄骨下地に5～6mmのボルトで固定してあるか。			
	継ぎ目重ねは、30mm以上となっているか。			
	垂れ下がりは、野地板より10mm以上下がっているか。			
棧 鼻	後ろに倒れないよう工夫し施工してあるか。			
水 上 端 部	立上がり部分は、八千代折りを基準とし、水返しを付けてあるか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

チェックシート
心木なし瓦棒葺
同カバールーフ
完成検査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
けらば納め	鉄骨造のけらば納めは、必要に応じ5～6mmのボルトと座金、パッキン(厚さ5mm以上、直径18mm以上)を使用して固定してあるか。			
	木造のけらば納めは、止め釘に座金をつけたものを使用しているか。			
キャップ	キャップの取付は、溝板になじみよく取り付けられていて十分な締付けがおこなわれているか。			
棟 納 め	棟包みは、棟板に32mm以上の釘を500mm間隔以内で止めてあるか。(防水テープでも可)			
	棟包みをせず、折り曲げ機を使用して棟を納める場合、折り曲げた両隅の部分の亀裂等の適切な処理をしているか。			
水 上 部 分 の 雨 押 え	継手部分は、棟納め方に準じて施工されているか。			
	雨押え板は、キャップ取付後に、各垂木ごとに釘止めとし、水切りは32mm以上の釘を500mm間隔以内で止めてあるか。			
	雨押えの水下側は、瓦棒間に切り込んで溝板まで下げているか。又は、エプロンを取り付けてあるか。			
	水切りの立上り寸法は、120mm以上になっているか。			
屋根材方向の雨 押 え	水切りの垂れは、一方は溝板の底まで折り曲げ、他の一方は120mm以上の立上りをして水返しを取り付けてあるか。(防水テープでも可)			
シーリング	各部分の必要な箇所へのシールは出来ているか。			
そ の 他	屋根材の表面に傷はないか。又、タッチアップ等の補修がされているか。			
	屋根の上や関係する場所の清掃が行われているか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

横 葺 工 法

中 間 検 査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
材 料	板厚・素材は、仕様書通りのものが使用されているか。			
	構成部材及び構成部品は、指定のものが使用されているか。			
墨 出 し	割付け、墨出しは、施工図通り正確に行われているか。			
下 地 の 状 態 及 び 下 葺 き	垂木の間隔は、500mm以内になっているか。(鋼製立母屋の場合はこの限りでない)			
	勾配は、3/10以上となっているか。			
	コンクリート構造の場合、横葺本体を葺いていくための金属垂木等が、アンカーボルトや適当と思われる釘等で強固に固定してあるか。			
	下葺き材は、アスファルトルーフ940以上のものが使用されているか。			
	下葺材の重ねは、100mm以上で横貼りとなっているか。又、縦貼りの場合は、200mm以上となっているか。			
施 工	壁立上り部分には、雨漏れ対策を充分考慮した捨て板が取り付けられているか。			
	割付け、墨出しに従って葺き出されていて、通りよく取り付けられているか。			
	葺板は、垂木・立て母屋等に釘・妥当うなタッピングビス等で固定してあるか。			
	葺板の継手部分は、捨て板を使用して十分な結合がされており、且つシール材が充填されているか。			
	継手の位置は、千鳥にしてあるか。(特に指定のある場合を除く)			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

横 葺 工 法
 チェックシート

完 成 検 査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
軒 先 納 め	唐草の形状は、軒先の状態を考慮して曲げ加工してあるか。			
	軒先唐草は、下地垂木間隔に合わせ、長さ32mm程度の釘又は、軸径39mm以上のドリリングタッピングねじ、若しくは、これと同等以上のもので止めてあるか。			
棟 納 め	棟包みは、棟板に32mm以上の釘で500mm間隔以内で止めてあるか。(防水テープでも可)			
	棟包みは、屋根材の面まで折り下げているか。			
	継手は、ハゼ組としてあるか。			
取 合 部 の 押 え	雨押えの水下側の納めは、棟包みに準じてあるか。			
	壁取り合い部分は、高さ120mm以上立上げてあるか。			
	登り雨押えは、シール材を入れ、ハゼ組となっているか。			
シ ー リ ン グ	各部分の必要な個所へのシールは出来ているか。			
そ の 他	屋根材の表面に傷はないか。又、タッチアップ等の補修がされているか。			
	屋根の上や関係する場所の清掃は、行われているか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

チェックシート
折板葺（重ね溝法）

中間検査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
材 料	許容曲げモーメント及び許容曲げ応力度を越えないで、且つそのたわみがスパンの1/300（片持ち梁にあつては1/200）を超えないように設計してあるか。			
	板厚・素材等は、仕様書通りのものが使用されているか。			
	構成部材及び構成部品は、「鋼板製屋根構法標準」で定める折板断面積に応じたものが使用されているか。			
下 地 の 確 認	受け梁の中断に対する適切な処置がされているか。			
	梁上面の勾配が屋根勾配と等しくなっているか。			
	屋根面の障害物に対する適切な梁が取り付けられているか。			
	雨押え等の立ち上げをする場合の壁面の部材は取り付けられているか。			
	けらばをはね出す場合に下面に支持金物があるか。			
裏 貼 り （ 断 熱 材 ）	断熱材の使用は指定してあるか。又、指定のものと同等以上の効果のあるものが使用されているか。			
墨 出 し	割付け、墨出しは、施工図通りであるか。			
タイトフレーム の 取 り 付 け	溶接後は、溶接部分の割れ、スラグ巻き込み融合不良、アンダーカット等の確認は行われているか。			
	溶接後に、スラグを除去し、防錆処理がされているか。			
	その他の方法で取り付ける場合は、「鋼板製屋根溝法標準」で定める施工方法となっているか。			
施 工	墨出し、割付け、仮葺き、本締めの手順となっているか。			
	緊結ボルトは、固定ボルト間を等間隔に600mm前後に割り付け締め付けられているか。			
シ ー リ ン グ	重ね部分にシーリングを施してあるか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

チェックシート
折板葺（重ね溝法）

完 成 検 査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
仕 上 げ 施 工	けらば部分には、規定の変形防止材が取り付けられているか。			
	棟・水上部分には、エプロンがなじみよく取り付けられているか。			
棟 納 め	固定ボルト止めとし、折板の山部と棟包み板の間にはシールが施されているか。			
	継手部分は、ラップジョイントかパットジョイントとし、シールが施されているか。			
水上の雨押え	一方は棟包みに準じて折板に取り付け、他端は立上がり寸法120mm以上となっているか。			
屋根材方向の雨押え	水上雨押えに準じて、なじみよく折板に重ね合わせているか。			
シーリング	各部分の必要な箇所へのシールは出来ているか。			
そ の 他	使用メーカーの標準施工法通りに施工されているか。			
	屋根材の表面に傷はないか。又、タッチアップ等の補修がされているか。			
	屋根の上や関係する場所の清掃は行われているか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

チェックシート
折板葺（ハゼ溝法）

中間検査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
材 料	許容曲げモーメント及び許容曲げ応力度を越えないで、且つそのたわみがスパンの1/300(片持ち梁にあつては1/200)を超えないように設計してあるか。			
	板厚・素材等は、仕様書通りのものが使用されているか。			
	構成部材及び構成部品は、「鋼板製屋根構法標準」で定める折板断面積に応じたものが使用されているか。			
下 地 の 確 認	受け梁の中断に対する適切な処置がされているか。			
	梁上面の勾配が屋根勾配と等しくなっているか。			
	屋根面の障害物に対する適切な梁が取り付けられているか。			
	雨押え等の立ち上げをする場合の壁面の部材は取り付けられているか。			
	けらばをはね出す場合に下面に支持金物があるか。			
裏 貼 り (断 熱 材)	断熱材の使用は指定してあるか。又、指定のものと同等以上の効果のあるものが使用されているか。			
墨 出 し	割付け、墨出しは、施工図通りであるか。			
タイトフレーム の 取 り 付 け	溶接後は、溶接部分の割れ、スラグ巻き込み融合不良、アンダーカット等の確認は行われているか。			
	溶接後に、スラグを除去し、防錆処理がされているか。			
	その他の方法で取り付ける場合は、「鋼板製屋根溝法標準」で定める施工方法となっているか。			
施 工	墨出し、割付け、仮葺き、本締めの手順となっているか。			
	緊結ボルトは、固定ボルト間を等間隔に600mm前後に割り付け締め付けられているか。			
シ ー リ ン グ	重ね部分にシーリングを施してあるか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

チェックシート
折板葺（ハゼ溝法）

完 成 検 査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
仕 上 げ 施 工	折板のハゼ締め作業は、工具や機械を使用して滑らかに、且つ、強く締め付けが行われているか。			
	けらば部分には、規定の変形防止材が取り付けられているか。			
棟 納 め	棟・水上部分には、エプロンがなじみよく取り付けられているか。			
	棟納めのための取付け金具が、折板の山部に取り付けられていて、その金具に棟包み板がビス止めされているか。			
	継手部分には、120mm以上の重ねがしてあるか。又、重ねの中に二重のシールが施してあるか。			
水 上 の 雨 押 え	水上面戸には、充分なシールが施してあるか。			
	一方は棟包みに準じて折板に取り付け、他端は立上がり寸法120mm以上となっているか。			
屋根材方向の雨 押 え	水上雨押えに準じて、なじみよく折板に重ね合わせているか。			
シ ー リ ン グ	各部分の必要な箇所へのシールは出来ているか。			
そ の 他	使用メーカーの標準施工法通りに施工されているか。			
	屋根材の表面に傷はないか。又、タッチアップ等の補修がされているか。			
	屋根の上や関係する場所の清掃は行われているか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

チェックシート
ステンレスシーム溶接防水工法

中間検査

責任施工業者				
工事名				
区分	チェックポイント	良	否	改善方法
材 料	露出工法の場合、溝板は、SUS 304 0.4mm以上の材質・板厚を使用しているか。			
	非露出工法の場合、溝板は、SUS 304 0.3mm以上の材質・板厚を使用しているか。			
	下葺材は、アスファルトルーフィング940、又は、発泡ポリエスチレンシート4 ⁺ を使用しているか。			
	吊り子止めが、異種金属の場合、電蝕防止がなされているか。			
	アンカー止めの場合、コンクリートの強度が出ているか。			
下地の状態及び下葺き	断熱材の使用は指定してあるか。使用の場合、同等又は同等以上の品質であるか。			
	下葺材は、隙間なく敷き込まれているか。			
墨出し	割付け、墨出しは、施工図通りであるか。			
吊り子	m ² 当り3.5本以上、強風地域では5本以上あるか。			
	吊り子自体、繰返し荷重に耐えられる強度であるか。 (固定部分吊り子の場合、板厚と吊り子の長さ、止めた頭の引抜強度を確認)			
	スライド吊り子の場合、スライド機能を果たしているか。			
	通し吊り子の場合、継ぎの部分でシームがとんでないか。			
施工	各メーカーの標準施工法通り施工されているか。			
適用				

検査日	年 月 日	再検査日	年 月 日
-----	-------	------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検査員氏名

検査員資格番号

チェックシート
ステンレスシーム溶接防水工法

完 成 検 査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
納 め	全てシーム溶接納めであるか。(コーキングの使用禁止)			
	材料の温度による変化を考慮して納めたか。			
そ の 他	屋根面は、清掃されているか。			
	ドレンの凍結による破損の虞はないか。			
施 工	各メーカーの標準施工法通り施工されているか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

チェックシート
スノーレン工法
(スノーダクト)
中間検査

責任施工業者				
工事名				
区分	チェックポイント	良	否	改善方法
材 料	板厚・素材は、仕様書通りのものが使用されているか。			
	構成部材及び下葺材は、フラットルーフに準じたものが使われているか。			
墨出し	割付け、墨出しは、施工図通りであるか。			
レ ー ン 及 び 堅 ど い	屋根勾配は、3/100程度となっているか。			
	レ ー ン 勾 配 は、1/50以上となっているか。			
	レ ー ン の 断 面 の 大 き さ 及 び 堅 ど い の 径 ・ 設 置 数 は 地 域 の 最 大 降 雨 量 に 充 分 対 応 で き る 計 算 と な っ て い る か。			
	レ ー ン の 小 口 止 ま り は、八千代折りで納められているか。			
	レ ー ン 及 び 堅 ど い の 取 合 い 部 分 は、ドレン標準工法に準じ入念に施工されているか。			
断 熱 及 び 換 気	屋根下地に断熱材の使用は指定してあるか。使用の場合、同等又は同等以上の品質であるか。			
	レ ー ン 周 り の 断 熱 材 は、指 定 し て あ る か。			
	天井裏断熱は充分か。			
	小屋裏換気は充分か。			
シーリング	テープは切れ目なく貼られているか。又、必要な部分のシールは出来ているか。			
適 用				

検査日	年 月 日	再検査日	年 月 日
-----	-------	------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検査員氏名

検査員資格番号

チェックシート
スノーレン工法
(スノーダクト)
完成検査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
屋根材・レーン 取 合 い 納 め	標準施工図通り納められているか。			
水上部分及び 屋根材方向の 雨 押 え	雨押え立上がりは、120mm以上で、ハゼ組か又は、垂れ下がり部分を溝板まで下げてあるか。			
立 上 が り 部 分 の 納 め	屋根の水上部分の立上りは、ハゼを倒して120mm以上の立上がりとし、水返しを付けてあるか。			
シ ー リ ン グ	各部分の必要な個所へのシールは出来ているか。			
そ の 他	屋根材の表面に傷はないか。又、タッチアップ等の補修がされているか。			
	屋根の上や関係する場所の清掃は、行われているか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

チェックシート
金 属 製 外 壁 張
中 間 検 査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
下 地 の 状 態	メーカーの標準仕様書に適する状態になっているか。			
	開口部廻り・ひさし廻りには四周に胴縁が取り付けられているか。			
下 張 り	断熱材の使用は指定してあるか。使用の場合、同等又は同等以上の品質であるか。			
	断熱材等の下張り材は、縦横通りよく張られているか。			
	断熱材等の下張り材の出隅・入隅部分、又、開口部分の切り込みに乱れがないか。			
	下張り材が破損した部分には適切な処置がされているか。			
墨 出 し	縦横の割付け、墨出しは、正確に行われているか。			
水 切 り の 施 工	継ぎ目重ねは、30mm以上となっているか。			
	止め釘及びビス止め間隔は、500mm以内で固定してあるか。			
	継ぎ目重ね部は、シールが施されているか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

チェックシート
金 属 製 外 壁 張
完 成 検 査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
壁 材 の 施 工	墨出しと割付をした通りの張り出され、且つ、通りよく、壁面の隅々には、切りこみ過ぎ等の不良部分はないか。			
	窓等開口部分には、切りこみ過ぎ等の不良部分はないか。			
	釘又はビスの頭が浮いている部分や打ち忘れの箇所はないか。			
	縦横の重ね部分は、なじみよく十分な重ねとなっているか。			
出 隅 ・ 入 隅 部 分 の 施 工	壁材を折り曲げるか、コーナーを別に加工して胴縁に釘又はビス止めの出来る加工がしてあり、取り付けてあるか。			
	壁材の表面に傷はないか。又、タッチアップや取替え等の補修がしてあるか。			
	外壁に関する場所の清掃は行われているか。			
シーリング	各部分の必要な箇所にシールが施されているか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

チェックシート
ストッパールーフ

中間検査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
材 料	溝板の厚さは、0.35mm以上で且つ仕様書通りの厚さが使用されているか。			
	下葺材は、改質アスファルトルーフィング(ゴムアス系)を使用しているか。			
墨 出 し	割付け、墨出しは、施工図通りであるか。			
	ストッパールーフ本体の水勾配は、1/100以上あるか。			
下 地 の 状 態	断熱材の使用は指定してあるか。使用の場合、同等又は同等以上の品質であるか。			
	下葺材の重ねは、100mm以上で横貼りとなっているか。又、縦方向200mm以上あるか。			
シーリング材	ハゼに2mm×8mm以上のブチルテープが貼られているか。又、シーリング材はSSシールを使用しているか。			
吊 り 子	固定釘は、有効打込み長さ45mm以上のものを使用して垂木に止めてあるか。			
	垂直最深積雪量110cm以上の多雪地帯では、屋根全面に厚さ0.8mm以上のハゼ部補強材を使用しているか。			
唐 草 けらば納め	唐草、けらばを釘止めとする場合、釘の長さは32mm以上を使用し、500mm以内の間隔で取り付けられているか。			
	継ぎ目重ねは、30mm以上となっているか。			
	垂れ下がりは、野地板等より10mm以上下がっているか。			
谷 納 め	谷板巾は、200mm以内であるか。			
	谷板、屋根板、取合部分にブチルテープ30～50mmが貼り付けられているか。			
	掴み込み部分にシーリング材を充填してあるか。			
水 上 端 部	立上がり部分は、八千代折りを基準とし、水返しを付けてあるか。			
適 用				

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号

チェックシート ストッパールーフ

完 成 検 査

責任施工業者				
工 事 名				
区 分	チェックポイント	良	否	改善方法
棟 納 め	棟包みは、棟板に32mm以上の釘を500mm間隔以内で止めてあるか。(防水テープでも可)			
	棟包みは、ハゼ組とする方法で施工してあるか。			
	棟包みの垂れ下がり部分は、溝板まで下げているか。			
水 上 部 分 及 び 登りの雨押え	雨押え立上がりは、120mm以上の立上がりとし、水返しを付けてあるか。(防水テープでも可)			
	棟納めに準じて止めてあるか。			
シ ー リ ン グ	各部分の必要な箇所へのシールは出来ているか。			
そ の 他	屋根材の表面に傷はないか。又、タッチアップ等の補修がされているか。			
	屋根の上や関係する場所の清掃は行われているか。			
	販売業者の講習を受講しているか。			
適 用				

※ この他、仕様は、SS-ROOF(マキタ式スノーストッパールーフ)標準マニュアルに準ずる。

検 査 日	年 月 日	再 検 査 日	年 月 日
-------	-------	---------	-------

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年 月 日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

支部長	委員長		事務局

検 査 員 氏 名

検 査 員 資 格 番 号